

3. 視覚障害編

(2) 基本的な姿勢・誘導のポイント

● 歩く

介助する人は、介助を受ける人の半歩前に立ち、肩から肘の間で持ちやすいところを軽く握ってもらいます。

①歩く速さは、介助を受ける人に合わせてください。

②歩くときは、まわりの様子などを説明しながら歩いてください。曲がったり、立ち止まったりするときは、あらかじめ声をかけましょう。

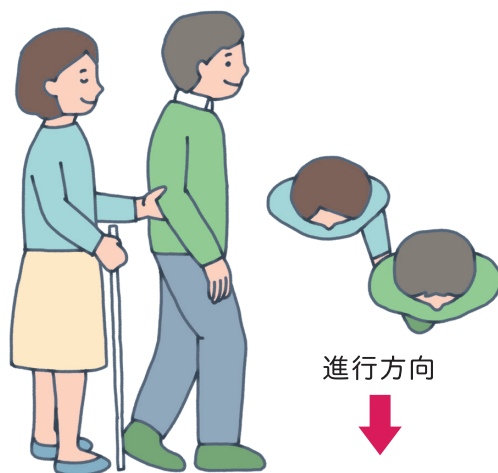
③前方に障害物や段差があるときは、具体的に「〇〇メートルほど前に〇〇がありますよ」と声をかけてください。

④狭いところ、混雑しているところでは、介助をする腕を後ろにまわし、介助をする人が前に立って一列に並んで進みます。

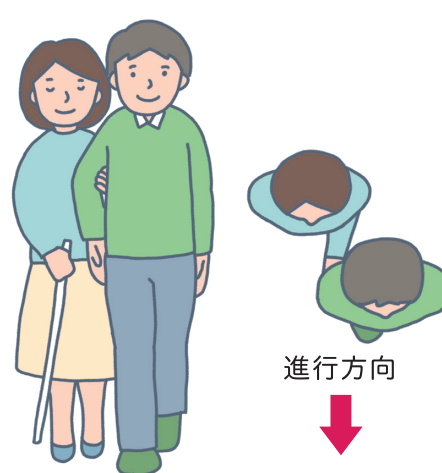
腕のつかみ方



基本姿勢



狭いところの場合



● 悪い誘導例

①手と手をつかむと体が離れてしまい、案内される人は不安になります。

②後ろ側から持つと介助される人が前に出てしまい、介助する人が後ろで案内することになってしまいます。

③腕を組むと介助される人が前に出てしまい、介助する人が後ろで案内することになってしまいます。

● ドア・戸

開きドアの場合は、形式（手前に引く等）を説明し、ドアの取っ手側に介助する人、蝶番側に介助を受ける人が立つ。「開けます」と声をかけドアの取っ手を手前に引きながら2人とも後ろへさがり、「通ります」と声をかけゆっくり通過する。その際、ドアへの衝突を避けるため介助を受ける人の手をドアの縁に導く。

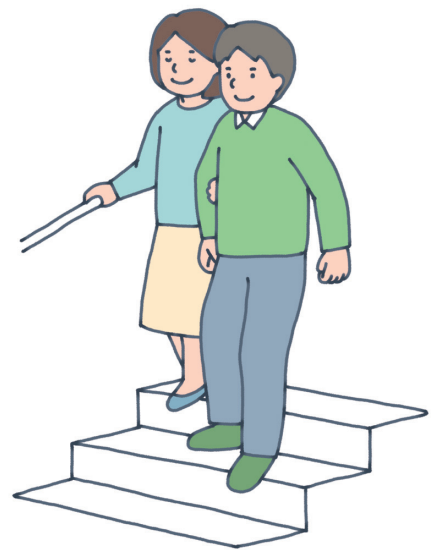
引き戸の場合は、形式（右横に引く等）を説明し、戸の取っ手側に介助する人、戸袋側に介助を受ける人が来るように立つ。「開けますよ」と声をかけ戸の取っ手を横に引きながら、「通りますよ」と声をかけゆっくり通過する。その際、戸への衝突を避けるため介助を受ける人の手を戸の縁に導く。

● 階段

階段では直前で立ち止まり、「階段です。上がります（下ります）」と声をかけ、介助する人は、介助を受ける人に足先で段を確かめてもらい、一段進んだときに介助を受ける人の足が最初の段にかかるのを確認してからゆっくり進みます。手すりがある場合は、手すりの状況やまわりの様子を伝え、どういう通行方法がよいのかを聞いてください。

踊り場や次の階に到着し階段が終わるときは、「この段で終わりです」と声をかけてください。

エスカレーターに乗る場合は左手がベルトにかかるようにし、下るときは、ベルトの動きで乗り切ったかどうか自分で判断できます。このとき、介助者は一段下に乗ってください。



● トイレ

トイレの利用は、介助を受けている側から言い出しにくいので、「トイレはいかがですか」、「私も行きたいので、一緒にどうですか」など、さりげない配慮が望めます。

トイレに入り、手洗いの位置を説明し、ブース（便房）の入り口まで誘導する。ブース内の設備（便器の形式、トイレットペーパー、水洗レバーの位置など）について説明してください。ペーパーやレバーの位置は実際に手を導いて説明しておくことが望めます。

介助する人は「終わったら呼んでください」と声をかけ、手洗い場付近で待ち、介助を受ける人が方向がわからない場合は介助しながら、水道の取っ手へ導きます。



知っておいて欲しいこと

介助する人と介助される人が、常に同姓であるとは限りません。女性が男性トイレに、男性が女性トイレにそれぞれ案内する場合もあるということを知っておいてください。

● いすに座る

いすへの着席は、介助を受ける人の手を背もたれに触れさせ「いすの背もたれです」と声をかけてください。

丸いすの場合は、座るところに触れさせ、丸いすであることを告げてください。



● 車の乗り降り

①介助をする人がドアを開け、介助を受ける人の手を開いたドアの上の縁に導きます（座席の方向がわかる）。次に、介助を受ける人の手を屋根に触れさせ（車の高さがわかる）、座席の端に腰をかけてから足を車内に入れて奥に入ります。介助をする人は、後から乗車しドアをしめます。



②車が停車したら、介助する人が先に降ります。介助を受ける人は、足から外に出し、片手を開いているドアの上に置き、座席から離れます。介助する人は、すぐに手をとって介助する体勢をとります。

● 支払い

原則としてお金の扱いは本人にしてもらいます。支払いを頼まれたときは、渡された金額を声をだして支払い、お釣りの額も紙幣と硬貨でそれぞれ種類別に説明しながら渡すとわかりやすいでしょう。

